尾張旭市の無形民俗文化財 一覧

区分	番号	名称	指定年月日	保存団体
県指定	23号	尾張旭市の棒の手	昭和33年3月29日	尾張旭市棒の手保存会
市指定	4号	尾張旭市の打ちはやし	昭和58年3月1日	尾張旭市打はやし保存会
市指定	5号	ざい踊り	昭和58年3月1日	尾張旭市ざい踊保存会
市指定	10号	尾張旭市の馬の塔	平成12年4月1日	尾張旭市馬の塔保存会

尾張旭市の無形民俗文化財　関連史跡マップ

スカイワードあさひ

3階の歴史民俗フロアでは、馬の塔の標具や、棒の手・打ちはやし・ざい踊りの写真パネルが展示されています。

洞光院

小牧長久手の戦いの局地戦・白山林の戦いの時、村を代表して、三好秀次の軍に食糧を差し出すことを断りに行き、殺されてしまった棒の手・無二流の師匠「水野吉平」と禰宜（神主）の「谷口菊三郎」を祀った「棒塚」があります。

多度神社

棒の手（無二流）や馬の塔が奉納されます。

良福寺

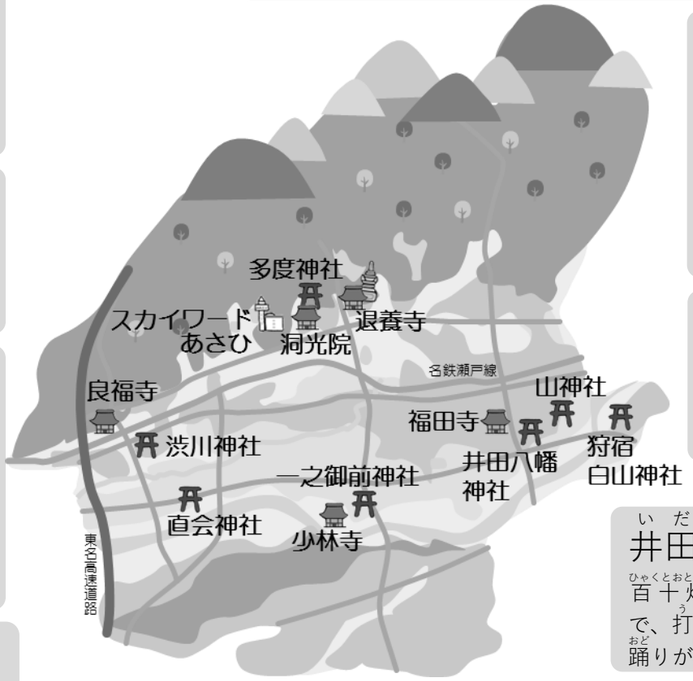
地蔵盆で、ざい踊りが奉納されます。

渋川神社

棒の手（直心我流・東軍流・直師夢想東軍流）やざい踊り、馬の塔が奉納されます。

直会神社

棒の手（直師夢想東軍流）やざい踊り、打ちはやしが奉納されます。



退養寺

裏山に棒の手・無二流の祖と言われる水野又太郎良春のものと伝わる墓があります。

山神社

(山ノ神社)
ざい踊りが奉納されます。

井田八幡神社

百十灯明祭や秋祭りで、打ちはやしやざい踊りが奉納されます。

一之御前神社

棒の手（検藤流）が奉納されます。

福田寺

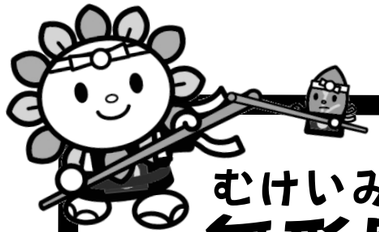
九万九千日で打ちはやしが奉納されます。

尾張旭市ホームページ「指定文化財（無形民俗文化財）」

行事の予定は、年によって変わることがあります。ホームページなどで確認してください。

尾張旭市の無形民俗文化財

こども向け



むけいみんぞくぶんかざい 無形民俗文化財って？

「文化財」とは、これまでの私たちの歴史の中で生まれ、現代に守り伝えられてきた貴重な財産です。文化財には、神社やお寺などの建物や、仏像、絵画、お祭り、動植物など、様々なものがふくまれます。そんな文化財の種類のひとつに「無形民俗文化財」があります。無形民俗文化財は、人々の生活の中で生まれたもののうち、衣食住や年中行事などに関わる風俗や習慣、芸能、技術などのことを言います。無形民俗文化財を守り伝えることによって、その地域の人たちが、どんな生活をしてきたのか、どんなことを大切にしていたかを今に伝えることができます。

発行：尾張旭市教育委員会　発行日：令和２年８月

県指定 文化財 第23号

尾張旭市の棒の手

▲胸に当てる「カザキリ」

棒の手は、棒や木太刀を使う民俗芸能で、２人から５人が型に従って演技します。五穀豊穣を願って神社やお寺に奉納されます。尾張地方、西三河地方で多く行われてきました。尾張旭市内には５つの流派があり、流派によって違いがありますが、一般的に本来の神事に近い「表」といわれる型と、キレモノ(真剣)などを使ってお客さんを楽しませる「花棒」といわれる型があります。

無二流（新居地区）

新居村を作った人と伝わっている氷野又太郎良春が、奈良の吉野で学び、新居の人々に伝えたと言われています。前に出す足が常にまっすぐであることが特徴で、「イ～ヤ～トォッ」の掛け声が祭りでもひときわ自立ちます。多度神社に奉納します

直師夢想東軍流（印場地区南部）

森下理右衛門という人によって始まり、印場地区南部に伝えられました。この流派は、股引（今のズボンのようなもの）が紺色なので、祭りなどで各流派が一緒に演技していても衣装で見分けることができます。渋川神社に奉納します。

検藤流（稲葉地区）

毛受勝助の子孫と伝わる毛受周平という人が、農民たちに教えたのが始まりと言われています。この流派では、棒術の基本は「棒対太刀」とされています。一之御前神社に奉納します。

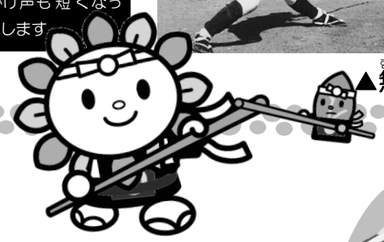
東軍流（印場地区北部）

伝言院伝寿という人によって始まり、印場地区北部の瀬場、塚本などの苗字の人々を中心に伝えられています。この流派は、攻めを主とした演技が多いのが特徴です。渋川神社に奉納します。

直心我流（印場地区北部）

比企良雄という人に教わった八木弥一郎博章が伝えたのが始まりと言われています。この流派は早技が特徴です。そのため、演技速度も早く、演技時間や掛け声も短くなっています。渋川神社に奉納します。

▲無二流(多度神社)



市指定 文化財 第５号

ざい踊り

◀ざい

ざい踊りは、市内で古くから行われてきた盆踊りのひとつです。ざい踊りの「ざい」とは、40ｃｍほどの竹筒の片方の端に紅白に染めた紙の房をつけたものです。これを両手に持ち、一つ、二つ…と打ち合わせて、数をとりながら踊ります。かつては、庄内川や矢田川、天白川の周りの地域をはじめとした広い地域で踊られていましたが、現在は、行われている地域は少なくなっています。

ざい踊りは女性が踊る「女踊り」です。衣装は鮮やかな橙色の着物、赤色の帯、水色の襷が基本ですが、夏には、印場地区の「鳳采会」は白地にえんじ色のうちわ柄、三郷地区の「みさと会」は白地に水色のうちわ柄の浴衣になります。

市指定 文化財 第４号

尾張旭市の打ちはやし

打ちはやしは、横笛や太鼓で演奏するお囃子のことで、かつてはどこの地域でもお神楽とともに受け継がれてきました。地域のお祭りでは、演奏しながら神社まで行進し、お神楽を奉納します。また、盆踊りなどにも登場し、提灯山とともに盛りあげます。市内では印場北島地区、庄中地区、井田地区の３つの保存会により伝統が守られています。

▲お祭りでの奉納(直会神社)

▲盆踊りでの提灯山

市指定 文化財 第６号

尾張旭市の馬の塔

馬の塔は、豊作のお礼や雨乞いなどのために「標具」という飾りで飾られた馬を１日だけお寺や神社に奉納する行事です。江戸時代の中ごろになると、とても豊作だった年に、いくつかの村が集まって、大きなお寺や神社に馬の塔を奉納する「合宿」も始まりました。合宿は１０年に一度くらいしか行われない特別な行事でした。馬を飾る「標具」は、普段の村のお祭りでは、「御幣」が使われますが、合宿では、それぞれの村ごとで異なる特別なものが使われます。現在、市内では印場北部、印場南部、新居、稲葉、三郷地区の保存会が馬の塔の行事と道具の保存、伝承を行っています。

印場北部：淡竹のタケノコとススダメ

印場南部：真竹のタケノコとススダメ

「雨後のタケノコ」という言葉があるように、雨が降ると一気に大きくなるタケノコ。そんなタケノコにちなんで、雨が降ることとその後の作物の成長を願う。

新居：ケシの花と実

種のつまったケシの実を米俵に見立てて豊作を願う。

稲葉：高札、馬びしゃく、ケズリカケ

合宿で訪れる竜泉寺(名古屋市)の本尊馬頭観音への水の奉納と雨が降ることを願う。

三郷：高札と御幣

奉納する村の名前が書かれた高札と御幣。

※馬の塔の標具はお祭りの期間をのぞいて、スカイワードあさひ３階の歴史民俗フロアに展示されています。